

平成22年度 主要施策・主要事業

③ 都市・交流拠点の創造



道路の美装化が進む木綿街道

● 広域交通網の整備と地域内幹線道路等の整備

- 山陰自動車道の出雲インターチェンジ以西の早期開通をめざし、国に強く要請していきます。
- 国道431号など県管理国道や主要地方道出雲三刀屋線など県道については、改良整備の推進を県に強く働きかけていきます。
- 主要な市道整備については、「第1次幹線市道整備10か年計画」に基づき、市内28路線の道路改良整備を進め、そのうち7路線は、新年度の完成をめざします。

生活道路および下水路については、整備計画に基づき、引き続き整備していくとともに、新年度には、新たな整備計画を策定していきます。

● 都市機能の拡充

- 「出雲市都市計画マスタープラン」に基づき、用途地域の見直しに着手していきます。
- 出雲地域の上成新町線ほか6路線と県事業の出雲市駅前矢尾線、平田地域の元町中の島線、大社地域の北荒木赤塚線の街路整備を推進していきます。
- まちづくり交付金制度を活用した都市再生等のまちづくりとして、今市地区ほか2地区の整備を進めていくとともに、今市町八雲周辺や木綿街道周辺道路の美装化、建築物の修景助成を進めていきます。

● 公共交通ネットワーク

- 航空機の既存路線の維持が危惧されているなか、一層の搭乗率向上に努めるとともに、既存路線・便数の維持確保を関係機関に強く要請していきます。

④ 環境先進都市の創造

● 環境保全施策等の推進

- 国際保護鳥トキの分散飼育開始に向け、「トキ分散飼育センター（仮称）」の建設・飼育体制の整備を行い、トキをシンボルとした、人と自然が共生できる、環境にやさしいまちづくりを進めていきます。
- 住宅用太陽光発電システム設置補助などの施策を推進し、化石エネルギーから再生可能エネルギーへの転換を進めていきます。
- 昨年7月からのレジ袋無料配布中止など、環境意識の啓発に今後も取り組んでいきます。
- 「平成の名水百選」に選定された浜山湧水群の活用に向けた施設を出雲文化伝承館に整備し、地域固有の資源を継承していきます。

● 安全・安心な都市づくり

- 治水対策として、斐伊川放水路の早期完成・大橋川改修事業の早期着工を国に強く要請していくとともに、新内藤川・赤川をはじめとする県管理河川の改修整備の推進を県に強く働きかけていきます。
- 佐田、多伎、湖陵地域、出雲地域の南部4地区の防災行政無線を年次的に整備していきます。
- 出雲西消防署の新設により更なる消防能力の向上に努めていくとともに、老朽化が進む平田と大社の消防署庁舎の具体的な整備計画を検討していきます。
- 斐川町との消防救急業務の受委託の協定が、平成23年3月までとなっていることから、早急に具体的な方針を検討していきます。

● 快適な居住空間の整備

- 市営住宅については、一部業務を除き、島根県住



太陽光発電

- 宅供給公社へ管理を委託し、県営・市営住宅の一体管理によるコスト削減と効率化を図ります。また、有原住宅2期工事の実施設計に着手していきます。
- 上水道については、大社地域の未普及地域解消事業への着手や上津浄水道のクリプト対策事業、新向山系の基幹管路の整備、平田地域の県水道用水供給事業の受水開始に向けた施設整備を行います。
- 簡易水道については、平田東部地区での簡水統合整備、地合、河下広域及び湖陵の各簡水の下水道への統合整備、須佐簡水の浄水施設改良事業、多伎簡水の老朽施設更新等を行います。
- 下水道については、出雲、平田、湖陵、大社地域では、引き続き計画的に公共下水道事業を推進し、多伎地域の汚水処理場の改築を進めていきます。また、漁業集落排水事業では、平田地域の西地合で汚水処理場の建設に着手、大社地域の鷺浦で管路施設の整備を進めていきます。
- 昨年末から審議中の水道料金や下水道使用料は、答申を受けた後、必要な見直しを行っていきます。

① 産業都市の創造



水素エンジン小型漁船主運転の状況

● 新規の企業立地や既存企業の事業拡張

- 市内の空き工場などの低・未利用地の活用も含め、市長自らトップセールを行いながら積極的に取り組みます。

● 新エネルギーへの取り組み

- 現在策定中の「出雲市バイオマスタウン構想」に基づき、地域資源の活用や民間における水素の活用を支援するとともに、新エネルギー関連の企業・研究機関の立地に向けた取り組みも行います。

● 市内産品の販路拡大と観光情報の発信

- 都会地での物産フェアや商談会等への参加支援を行うとともに、東アジアを中心に海外も視野に入れた販路開拓に取り組みます。

● 中小企業対策と中心市街地活性化

- 厳しい経済状況に直面する中小企業者に対し、県の中小企業制度融資利用者への信用保証料の補助を引き続き行います。
- 商店街の空き店舗解消のための改装費や家賃補助を引き続き実施するとともに、「中心市街地活性化基本計画」の認定に向け、関係する事業者、商工団体等と協議を重ねていきます。

● 雇用対策

- 国の緊急雇用創出事業等を活用し、新年度に24

事業で136人の雇用創出をめざします。
・ 離職者に対する再就職支援については、関係機関との連携を強化し、ジョブ・ステーション出雲において就職相談から職業紹介、就職後のフォローアップまで雇用関連サービスをきめ細やかに提供していきます。

● 農林水産業の振興

豊かな出雲の自然環境から生み出される地域資源を再認識し、更なる可能性も探求して、新たな農林水産振興策をかたちづくり、実現可能なものから実施していきます。

- 現在国で予算審議されている米戸別所得補償モデル事業および水田利活用自給力向上事業の実施にあたっては、米の生産数量目標に即した生産を行うことを基本とし、関係機関と連携して推進します。
- 特に、調整水田、自己保全管理水田では、麦、大豆、飼料作物に加え、そば、飼料用米の生産を推進し、「地域水田農業ビジョン」の見直しも行いながら、水田の有効利用と自給率向上につなげていきます。
- 林業の現状と課題を検証し、建材用途のほか、バイオマスとしての利用やCO₂削減をはじめ、環境面での価値の付与など、出雲産材の活用方策を多面的に検討していきます。
- 水産資源の持続性を高めるため、ヒラメやアマダイなどの中間育成・放流を行う栽培漁業を引き続き推進するとともに、内水面漁業の資源維持に努めていきます。
- 県営大社漁港に計画している水産物産地市場については、魚価の向上や地産地消の推進を図ることを目的に、新年度の完成をめざして整備を進めていきます。また、西地合地区において引き続き集落道の整備を行います。

② 出雲神話観光大国の創造

山陰自動車道斐川―出雲間の開通によるアクセスの向上や、一畑電車を舞台とした映画「RAILWAYS」の全国規模での上映、さらには平成25年5月の出雲大社の正遷宮など、これらを千載一遇のチャンスととらえ、多彩な観光資源を活用した観光客誘致を図っていきます。

● 観光客誘致

- 出雲観光協会の活性化を支援し、観光客誘致の体制強化に努めていきます。
- 県・関係自治体と連携し、新たな観光キャンペーンの検討に着手するとともに、都会地での観光情報発信を強化していきます。

● 大社門前町の再生

- 出雲大社周辺地区の電線類の地中化・美装化に取り組み、門前町にふさわしい空間整備、歴史的散策ルートの整備に努めていきます。



出雲大社勢溜周辺

・ 県事業である神門通りの整備、国道431号勢溜周辺の歩道整備を地元の協力を得ながら促進していきます。

● 滞在型観光資源の活用

- 10月にはJR出雲市駅開業100周年を迎えます。4月から一部出雲市駅発になるJRのトロッコ列車を活用したツアー商品など、新たな滞在型観光資源になるものと期待しています。